

## 近現代東アジアにおける「健康」の歴史研究

人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」（通称 NIHU エコヘルス）では、急速な社会・環境変容が進むアジア地域において、「人の健康」を日常の暮らし、生態環境、生業との関わりの中で模索する「エコヘルス」の概念を、人文学の視点から再構築することを目的としている。本研究の一環として、総合地球環境学研究所では、アジアにおける健康概念を、時間軸（歴史性）および空間軸（地域性）の中で検討することとしている。

本研究会は、歴史学の視点から東アジアにおける「健康」観、「健康」実践の歴史的展開を考察するための方法や史料について検討することを目的としている。日本・中国・台湾・韓国（朝鮮半島）といった東アジア諸地域では、近代以降、生物医学に基づいた「健康」概念が導入された。だが、その含意や実践のありようは各地域・時代の社会経済的、政治的、文化的生態環境的条件により多様であったと考えられる。歴史学の分野では、1990年代以降、医療や衛生、疾病を扱う医療社会史研究が発展してきたが、そこでは近代国家体系における「病む身体」とそのコントロールの制度化といった問題に焦点があてられてきた。しかし「健康」概念は極めて多義的であり、必ずしも「病」の対極としてのみ見ることはできない。

そこで、本研究会では、東アジアの各時代・地域における「健康」観・「健康」実践を、具体的史料に基づき如何に再構成するか、個々の時代・地域を扱う歴史研究が、NIHU エコヘルス研究全体に対しどのような貢献ができるか、といった点を中心に議論することとする。

日時： 2016年5月25日（水）13:00－18:00

場所： 首都大学東京 6号館 3階 313教室

[http://www.tmu.ac.jp/university/campus\\_guide/map.html](http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/map.html)

主催：人間文化研究機構広域連携型基幹プロジェクト『アジアにおける「エコヘルス」の新展開』

問い合わせ： [jiang<@>chikyu.ac.jp](mailto:jiang@chikyu.ac.jp)

### プログラム

福土由紀（首都大学東京）「NIHU エコヘルス・歴史研究計画」

市川智生（長崎大学）

「ヒトとウシから見た日本の結核史：歴史統計による prevalence の把握」

Alexander Bay (Chapman University)

“Disease, environment and historical agency”

キム・ヨンス（延世大学）

「近代韓国における健康衛生関連書籍とその利用」

福土由紀（首都大学東京）

「近代期中国農村調査記録の利用可能性」